

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立田原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	30人	算数	30人	理科	30人
第5学年	国語	31人	算数	31人	理科	31人

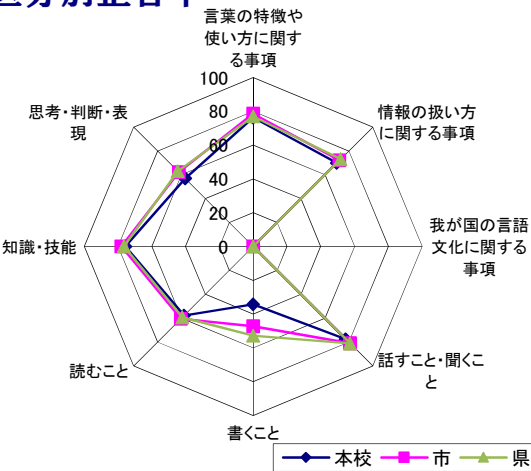
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立田原小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	76.3	78.6	76.9
	情報の扱い方にに関する事項	70.0	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	77.5	81.0	81.1
	書くこと	34.2	47.2	52.8
	読むこと	57.9	60.5	59.3
観点	知識・技能	75.7	78.0	76.5
	思考・判断・表現	56.9	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

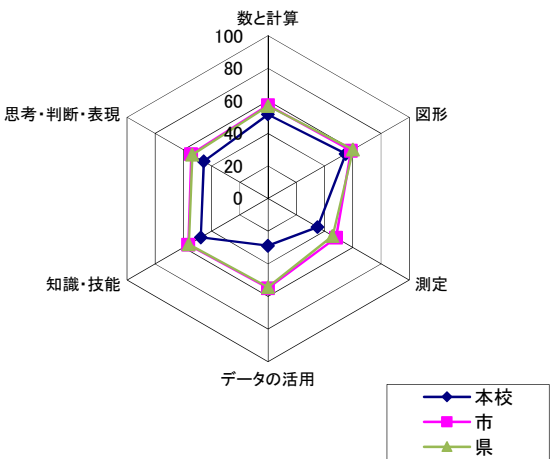
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市や県の平均と同レベル。 ○漢字を正しく読み書きができています。 ●文中における主語と述語の関係を捉えることが苦手である。	・朝の学習の時間、宿題、家庭学習強化週間等を通して反復練習を行う。 ・プリント学習などを取り入れながら、主語と述語の関係を捉えることができるよう理解を深める学習を行う。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市や県の平均より、若干低い。 ●国語辞典の使い方についての理解が不十分であり、活用の仕方への課題が見られる。	・国語辞典を日常的に用いて、言葉の意味を理解する機会を設ける。また、その活動を通じて同じ言葉でもいろいろな意味があることを気付かせる。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市や県の平均より低いものがあった。 ○話し手が伝えたいことの内容や話し方の工夫を捉えることができる設問の選択の正答率は平均レベルであった。 ●司会者の話し方の工夫や参加者の発言を基に自分の考えをまとめる設問に適するものを選ぶ正答率は低い。	・国語の時間だけでなく、学級活動等で司会の経験をさせるなど、自分の考えを相手に伝える経験を増やす。
書くこと	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ●意見文を記述する設問において、県や市の平均を大きく下回った。またその半数は無回答であった。	・朝の学習の時間で、書くことの練習をする。(文字数・段落・時間・理由などを意識して書くことができるよう繰り返し指導していく。) ・振り返りの時間を活用し、自分の考えを書けるようにする。
読むこと	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ○登場人物の気持ちや行動の理由を説明した文として適するものを選ぶ設問の正答率が高い。 ○叙述を基に段落の内容を捉える設問の正答率が高い。 ●叙述を基に指示語の内容を捉える設問の正答率は低い。 ●文章を読んで感じたことや分かったことを共有することや、場面の様子について叙述を基に捉える設問の正答率が低い。	・指示語の役割を捉えることができるように、指導していく。 ・文章から人物がどう考えているのかを想像して読むことができる機会を増やす。

宇都宮市立田原小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	51.6	57.4	56.9
	図形	55.0	58.7	60.1
	測定	35.0	48.1	45.7
	データの活用	28.9	54.9	54.3
観点	知識・技能	47.7	56.6	56.2
	思考・判断・表現	45.6	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

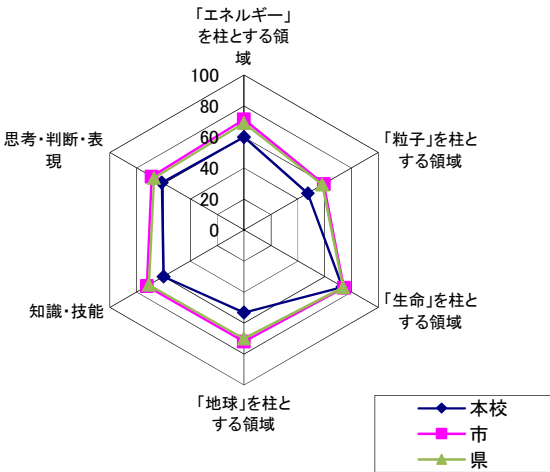
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県の平均より低い。 ○ひき算の筆算、かけ算の筆算等計算の設問の正答率が高い。 ●小数を数直線の上に表すとき、どこに位置するかを説明する設問の正答率が低い。	・今後も習熟度別の授業や繰り返し学習を通して基礎的事項の習熟を図り、タブレット端末に備えられている計算ドリルを使って計算の練習を行う。 ・小数の仕組みについて、実際に数直線を用いて指導を行うことで、理解を深めていく。
図形	平均正答率は、県の平均よりやや低い。 ○球を平面で切ったときの正しい切り口の形を選ぶ設問では、正答率が高い。 ●二等辺三角形をかくときに、頂点を選ぶ設問では正答率が低い。	・立体の学習では、実際に模型を用いて切り口の予想をさせたり、いろいろな形の立体を使用するなど実物を用いた指導を行い理解を深めた。今後も継続していきたい。 ・二等辺三角形の頂点を決める問題は、二等辺三角形の性質の徹底的な習熟を図り、どのように求めたらよいか考えさせ理解を深めていく。
測定	平均正答率は、県の平均より低い。 ●はかりの目盛りを読み取り、重さを答える設問では、正答率が低い。	・はかりの目盛りについて読み方の徹底的な習熟を図るとともに様々なパターンの目盛りを読ませる練習をしていく。
データの活用	平均正答率は、県の平均より低い。 ●棒グラフについて答える設問の正答率が低い。	・棒グラフの仕組み、読み方等基礎的な部分から徹底的な習熟を図っていく。

宇都宮市立田原小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	60.0	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	47.5	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	73.3	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	53.3	72.0	70.1
観点	知識・技能	60.0	72.5	70.9
	思考・判断・表現	61.2	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ○糸電話の糸をつまんだ結果から、震えを止めたときの音の伝わり方の変化についての記述問題では理解している。 ●電気を通すものについて理解しているかどうかを見る問題の正答率が低い。電気を通す物質についての理解ができていない。	・単元の導入で、自然の事象や現象から見いだした問題に対し、既習事項や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を立てさせ、問題解決の力や主体的に問題解決しようとする態度を養うことに重点をおいて指導していく。 ・実験結果を自分の言葉でまとめたり、グラフや表に表したりして比較・分類するとともに、考察を導き出すなどの時間を確保し、科学的な思考を深められるような授業展開を行う。 ・実験・観察の結果・考察から、重要な語句を確認し、実感的に身に付けられるようする。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ○体積を同じにした時のものの重さのちがいについて考え表現する設問の正答率が高い。 ●形を変えても重さは変わらないことについて理解しているかを問う設問の正答率が低い。	・対象物の形や向きを変えて計測するなど、実物を操作して結果を記録したり、考察したりする活動を充実させていく。 ・実験結果からの話し合いの内容を問う問題の理解が不十分であることから、予想や実験後の考察などを書かせるようにしたり、意見を交換して結論を導き出す活動を増やしたりして、理由や事象について言葉で説明する力を育むようにしていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ○モンシロチョウとトンボの育ち方の違いを捉える設問の正答率が高い。 ●複数の植物のつくりを比較し、共通点を記述する設問では、正答率が低い。	・今後も、日頃から身近な場面で自然や季節に触れる機会を設定し、日常生活と科学的事象を結び付けた体験を増やしていく。 ・観察記録を見比べたり、共通点や相違点を話し合ったりするなどして、複数の記録を比較して考察する活動を増やしていく。 ・観察を基に植物の基礎的なつくりや名称を確認し、基礎的用語を理解できるよう指導していく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ●温度計や方位磁針の正しい使い方を選ぶ設問では、正答率が低い。 ●太陽の位置の変化を方位で考える設問の正答率が低い。	・日頃の生活と、学習する内容とを結び付けて考えさせ、身近な疑問から学習を深め、解決しようとする態度を育む。 ・観察・実験をしながら、道具の使い方を指導していく。 ・影の向きから太陽の位置を推測し、方角と結び付ける考え方が不十分であることから、実際にできた影や太陽の向き、方角などを観察・記録し、それらを関連付けて結果を考察させるなどして、様々な要素を複合的に結び付けて考える力を育むようにしていく。

宇都宮市立田原小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分はクラスの役に立っていると思う」の肯定的回答は83.3ポイントで市の平均を上回っている。今後も、児童が互いのよさを認め合い、協力しながら学び合える環境づくりを大切にしていきたい。特に、学級内での役割分担や話し合い活動において、児童が主体的に関わり、自分の意見や行動が仲間のためになっていると感じられるような場面を意図的に設けていく。

○「むずかしいことでも失敗をおそれないでしよう戦している」の肯定的回答が96.7ポイントと市の平均を大きく上回っている。今後も授業では、失敗を肯定的に捉える声掛けや振り返りの時間を大切にし、児童が「やってみよう」「できるかも」と思えるような声掛けや環境づくりを、学校全体で継続して取り組んでいく。

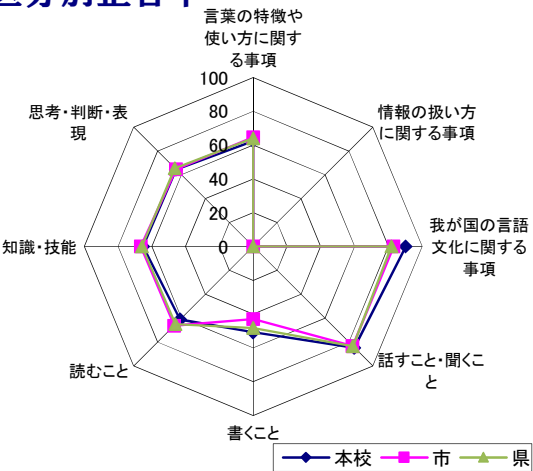
●「家で、自分で計画を立てて勉強している」「家で、学校の授業の予習をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」の肯定的回答が市の平均より全体的に下回っており、家庭学習の未定着が見られる。主体的に粘り強く取り組む態度が課題となっていることから、困難なことに出会ってもやり抜く力や課題に対して自分から進んで取り組んでいく力を身に付けることができるよう、学校と家庭で前向きに取り組めるような声掛けをしていく。

●ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む)をしますか。を問う問題では、3割近くの子どもが3時間以上と回答している。今後は学級通信や懇談会などで問題提起を行い、学校と家庭で適切な時間の使い方について、前向きに取り組めるような声掛けをしていく。

宇都宮市立田原小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	62.4	64.7	64.1
	情報の扱いに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化に関する事項	90.3	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	84.7	83.3	83.4
	書くこと	50.8	42.8	48.2
	読むこと	61.3	66.1	65.1
観点	知識・技能	65.2	66.5	65.9
	思考・判断・表現	64.5	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

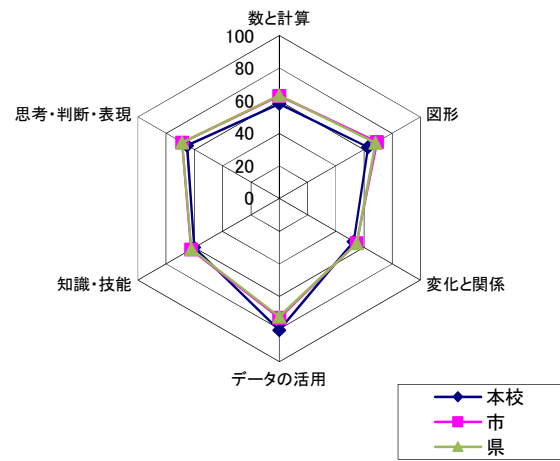
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、市や県の平均よりやや低い。 ○漢字の読み書き、修飾語の関係・熟語の組合せなどは、県や市の平均より高い。	・宿題や自主学習、朝の学習などの時間を、効果的に使って指導を継続して行う。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市や県の平均より高い。 ○ことわざの意味の理解を問う設問の正答率が高い。	・今後も指導を継続し、日常的にことわざを使って話すことで、生活の中でも楽しんで言葉に関わることができるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市や県の平均よりやや高い。 ○参加者の発言の内容を基に司会者の発言に適する内容を書く設問の正答率が高い。	・今後も話し手が話した内容・工夫などを理解し、話の中心や相手の意図を意識して聞くことができるように指導していくようにする。
書くこと	平均正答率は、市や県の平均より高い。 ○指定された長さで文章を書くことができた。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことに課題が見られた。	・宿題や自主学習など時間を利用して、2段落構成の文章を書くことの機会を設け、指導に力を入れる。
読むこと	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ○文章を読んで感じたことや考えたことを話しているやり取りを読み、空欄に適するものを選ぶ問題の正答率がたかい。 ●文章の内容をまとめた文の空欄に適する言葉を書く問題の正答率が低い。	・文章中にある空欄に、限られた文字数で言葉を書く練習問題を、朝の学習などの時間を効果的に使って指導を継続して行う。

宇都宮市立田原小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	58.1	63.0	63.3
	図形	62.9	69.2	68.3
	変化と関係	52.7	54.8	55.0
	データの活用	80.7	73.1	72.3
観点	知識・技能	60.0	62.3	62.1
	思考・判断・表現	65.2	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

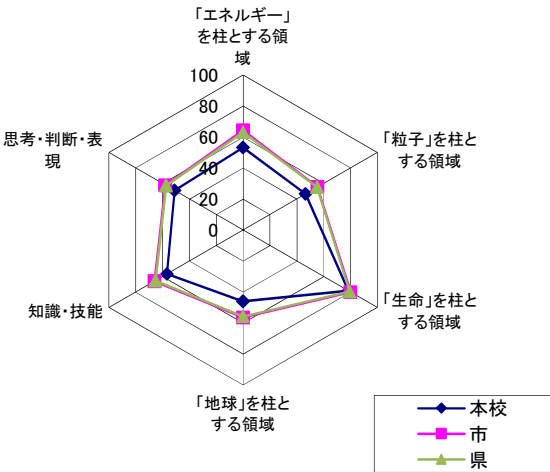
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ○小数第2位と整数の計算がよくできている。 ○大きい数の仕組みについて理解できている。 ●図から数量を読み取り、1つの式に表現する設問に課題が見られる。	・今後も習熟度別の授業や繰り返し学習を通して基礎的事項の習熟を図り、タブレット端末に備えられている計算ドリルを使って計算の練習を行う。 ・問題の場合に限らず、普段の授業からの思考の流れを文章化する指導を行い、論理的思考力を身に付けさせる。
図形	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ○立体の構成を理解し、立体について理解できている。 ●三角定規の角を利用して角度を求める問題に課題が見られる。	・今後も習熟度別の授業や繰り返し学習を通して基礎的事項の習熟を図り、タブレット端末に備えられている計算ドリルを使って反復練習を行う。 ・図形の定義を確認した上で、どのように角度を求めたらよいか考えさせ、図形への理解を深める。
変化と関係	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ○表を横に見て伴って変わる2つの数量関係について理解している。 ●ともなって変わる2つの数量の関係を式に表すことに課題が見られる。	・今後も習熟度別の授業や繰り返し学習を通して基礎的事項の習熟を図り、タブレット端末に備えられている計算ドリルを使って反復練習を行う。 ・身の回りのともなって変わる2つの数量の関係に着目し、図を使って表す活動を通して、関数的な見方や考え方ができるようにしていく。 ・変化の様子を可視化し、数量どうしの関係を捉えやすくしていく。
データの活用	平均正答率は、市や県の平均より高い。 ○折れ線グラフから、必要なことを読み取ることができている。 ○2次元表の意味を理解し、読み取ることができている。	・今後も習熟度別の授業や繰り返し学習を通して基礎的事項の習熟を図り、タブレット端末に備えられている計算ドリルを使って反復練習を行う。 ・今後も継続して、統計的な見方・考え方を伸ばすために、折れ線グラフの見方、読み方について確認し、データとして活用できるよう指導する。

宇都宮市立田原小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	53.2	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	46.5	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	78.5	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	46.0	56.4	55.8
観点	知識・技能	56.8	66.0	65.3
	思考・判断・表現	51.1	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ●乾電池のつなぎ方の名称やつなぎ方と電流の大きさの関係に対する理解に課題が見られる。	・授業においては、学習課題を明確にし、既習内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を立て、実験結果から考察して自分の言葉で表現するといった学習活動を展開することで、課題に対する答えを児童自ら考える力を育てていく。 ・定期的な復習を行い、学んだ知識の定着を図る。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ○水のあたたまり方について、実験の結果を解釈し、考察する問題はよく理解している。 ●とじこめた空気や水が押し縮められるかどうかを見る問題についての理解に課題が見られる。	・実験や観察を充実させ、予想と結果を結び付けて考えることや、分かったことをまとめたり、振り返ったりすることを繰り返していくことで、実体験を知識に結び付けられるようにして、知識の定着を図る。 ・身近な物を使って説明し、生活経験にも結び付けられるような教材を活用して、理論を実践的に理解できるよう指導していく。 ・定期的な復習を行い、学んだ知識の定着を図る。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均よりやや低い。 ○ヘチマの季節ごとの成長の様子について理解しているかを問う問題についてよく理解している。 ●骨のはたらきについての理解に課題が見られる。	・様々な事象について、「なぜ?」「どうして?」という疑問を大切に、科学的な思考を深める機会を生かしながら指導していく。 ・筋肉や関節の動きが分かる模型や動画教材等を積極的に活用し、視覚的・体験的に理解が深まるように工夫していく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ○窓に結露が発生する理由や水滴がつく場所について理解している。 ●雨のときの気温の変化を選ぶ、理由を問う問題の理解に課題が見られる。	・実験・観察結果から考察して自分の言葉で表現するといった学習活動を展開することで、課題に対する答えを児童自ら考える力を育てる。また、課題解決学習を通し、実感的をともなった理解につなげていく。

宇都宮市立田原小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業を集中して受けている。」の肯定割合は100%であった。今後も児童が集中して受けることができるような授業展開を意識していく。また、児童が「わかった！できた！もっとやりたい！」という学びのサイクルを回し、家庭学習に自発的に取り組むことができるような授業・声掛けも並行して行っていきたい。

○「授業では、自分の発表する機会があたえられている。」の肯定割合は96.9%で市の平均を上回っている。今後も児童が安心して発表ができる学級の雰囲気や間違えても大丈夫という安心感を子どもたちがもてるような取組を行っていきたい。

○「毎日の生活がじゅう実していると感じている。」の肯定割合は100%であった。今後も児童が楽しく、安心して学校生活を送ることができるような支援を行っていく。また、子どもたちが目的をもって学校行事や特別活動、学級活動等に取り組むことができるように見通しをしっかりととらせるような指導を行っていきたい。

●「家で、自分の計画を立てて勉強している。」「家で、学校の予習をしている。」「家で、学校の授業を復習をしている。」「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている。」「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」の肯定的回答が市の平均よりも下回っており、家庭学習の未定着が見られる。また、主体的に粘り強く取り組む態度が課題となっていることから、困難なことに出会ってもやり抜く力や課題に対して自分から進んで取り組んでいく力を身に付けることができるよう学校と家庭で連携して取り組めるよう働きかけていく。

宇都宮市立田原小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	・児童相互の学び合いの場で、自分の意見を話したり、友達の考えを聞いたりする活動を適切に取り入れる。	・取組に関わるアンケート項目では、4年生、5年生ともに県の平均を上回る結果が得られている。日々の授業の積み重ねが、児童の深い学びにつながるため、今後も継続して実践していく。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
設問4「家で、学校の授業の復習をしている。」において、4年生、5年生ともに課題が見られた。	・自主学習の奨励と学習内容の発展的活用	・授業で学習したことを、確実に身に付けるために、宿題以外に自分の状態に合わせた学習を勧める。 ・予習、授業、復習のサイクルの定着を学年の実態に合わせて指導する。